京都市学校歴史博物館だより VOL.2

ミレニアムの年にこそ
一層の発展と事業の充実へ
～人倫の道こそ，教育の原点～

京都市学校歴史博物館
館長　上田　正昭

平成10年11月に開館しました当博物館も，1年4ヶ月，順調に歩んでまいりました。皆様の大きなご支援とご協力のおかげをもちまして，来館者も15,000人を越え，好評をいただいており，本当に嬉しく存じております。

特に，京都市民の方々はもとより，全国各地から，様々な方にお越しいただいていることは望外の喜びです。さらに外国からの研究者や留学生，観光の方々も訪れていただき，京都の学校の歴史をたしかめてお帰りいただいております。

開館1年次は，五里霧中のなかで展示や事業を進めましたが，多くの方に参加いただき，成功裏に事業を終えることができました。皆様のご支援に感謝します。

平成12年は，ミレニアム（千年紀）の年であります。千年前の京の都といえば，摂関政治の時代で，藤原道長の華やかな王朝時代を迎えようとしている頃でありました。長保2年（1000）の年には，北野社が焼亡する，雷火で豊楽院が焼ける，大雨で鴨川が決壊し，洛中が洪水の被害など，様々な出来事がありました。当時の都のひとびとにとっては，暗澹たる心持ちの年であったかも知れません。

歳月が経過しまして，千年後の本年，わが国は世界の中でもトップクラスの豊かな国になっていますが，なかなか回復しない景気動向の下，様々な社会問題が噴出しています。特に，教育の面での大きな課題は，物質的豊かさに反比例している精神的貧しさです。今日，生起する様々な事件の背後に，子供たちのみならず，大人たちの心の歪みが反映されています。「心の教育」が叫ばれる所以であります。

130年前，京都の町衆を中心に人々は教育を振興して人づくりを図ろうと，番組小学校を全国に先駆けて創設いたしましたが，それらの学校での教えの中心は，いわゆる「人倫の道」＝人間が人間らしく生きる道＝でありました。

しかし，今の日本ではどうでしょうか？　人間の道は忘れがちにされています。民主主義，自由主義，個人主義の名の下に，人と人との触れ合い，心の通い合いが薄れ，様々な弊害を生じているようにも思われます。

明治初期，人づくりのため，京都の人々が英知と情熱を傾けた学校づくり，教育，その思いを現代の私たちが取り戻し，子供たちの健全な心の育成に邁進しなければ，良き日本の精神は廃れていくことになります。

その意味からも，「京の先人たちの教育への情熱と熱い思いを伝え，21世紀の人づくりを考える」施設である学校歴史博物館の使命はますます大きくなると存じます。開館2年次となるこのミレニアムの年に内容の充実とあらたな事業展開を図っていきたいと考えています。

皆様のさらなるご理解とご支援を切にお願いいたします。

先人の教育への熱い思いを学び

21世紀の人づくりを考える =教育シンポジューム=

開館1周年の記念事業として，昨年12月8日（水）午後，京都市立永松記念教育センター・大研修室で，教育シンポジューム**「21世紀の人づくりを考える～学校教育の黎明期から，現在・未来～」**を開催しました。

この教育シンポジュームは，京都の番組小学校を創設した町衆たちの教育への情熱を学ぶとともに，先達の博物館・資料館である長野県の開智学校，愛媛県の開明学校，岡山県の閑谷学校の調査研究に携わられた学識経験者の方々を招いて，明治初期，それぞれの地域での教育に懸けた人々の熱い心に触れて，これからの教育・ひとづくりを考える集いとして，「人づくり21世紀委員会（代表・河合隼雄氏）」の協賛を得て，学校歴史博物館が実施したものです。

それぞれの先生方の熱弁と，ユニークなご意見や説得性のある話しに，350名の参加者には，それぞれ得るところ多い教育シンポジュームとして好評を得ました。

上田正昭館長の基調講演では

学校歴史博物館設立の経緯の説明の後，『平安時代空海によって設立された綜芸種智院や，貴族の子弟の勧学院，弘文院を初めとする京都の学問と学校の長い歴史と伝統がある。江戸時代の儒学者・伊藤仁齊の古義堂や石門心学の石田梅岩の講舎など，町人による，町人のための，町人の学問の伝統があったから，明治になって都が東京に遷った時，町衆たちを中心にして，64もの番組小学校を創設することができた。そして，京都の近代化に大きな役割を果たした。21世紀の教育・人づくりを考える上で，儒学や心学道話で培われた「人倫＝心の教育」が番組小学校の教えの核となったことや，また，明治の先人が情熱と英知を注いで学校を創設した，その知恵に学ぶところは大きい』と話された。

シンポジュームでは，4名のパネリストから意見が出された。

■石附　実氏（大阪市立大学名誉教授・京都女子大学教授）の提起・意見

明治5年の学制発布を中心に，日本が明治以後，西洋に短期間に追いつくために，日本の近代化を教育＝学校によって図ろうとしたことを，イギリスの学校との比較も交えて説明。特に義務教育は上からの指導だけでなく下からの支えが学校の大きな力となって黎明期の教育が発展した。

21世紀の教育を考えるとき，学校だけでなく，自発的な個人の学習・教育の遍歴が大切であり，もう少し生活と結び付く教育を考え，他者との連携を図れるように考えなければならない。

■柴田　一氏（岡山・就実女子大学教授）の提起・意見

池田光政が1668年に郡中手習所を作った経緯から，立派な講堂を備えた閑谷学校に発展した背景や，地域のリーダーとなる者の育成のために教育が展開されたことなどを詳しく説明。

江戸時代の藩校の教育は，上に立つ治者として精神主義の教育が中心。現在の教育には，精神主義の部分が欠けており，教育の方向として変えていくことも大事。

■佐藤　秀夫氏（日本大学教授）の提起・意見

松本の開智学校の教育資料調査についての説明。

従来の教育史では，日本の近代の文化的特徴，教育に関わる「物（教材・教具）」や「事（しきたり）」が，どのように発生し，介在し，役に立ったのか，等の裏付けがされていない。制度的な変遷も，教育の具体的な物や事について考えると，改めて教育について考えさせられることが多い。

今後は，学校におけるボランティズムをどう復活させるかが課題。

■寺崎　昌男氏（東京大学名誉教授・桜美林大学教授）の提起・意見

宇和町の開明学校の開設経緯と，幕末期からの，何か学びたいという地元の人々の向学心が，水脈のような伝統となって現在に至っている状況を，日本の教育の明治から大正・昭和へと学びの意味合いの変遷と重ね合わせ，詳しく説明。

不登校については，学校も一つの形と考え，別の学びを見出だすのも今後の教育の方向である。また，神戸の大震災で示された学校の役割から，地域との繋がりでの人づくりが一層大事である。

コーディネーター・上田正昭館長のまとめ

・学校は，地域が作り，地域の中で生きてきた。これからは生涯学習の拠点として地域に機能していく学校の役割が求められる。

・今日の先生方から話された各地の教育の歩みにも示されているように，先人の教育に対する英知や情熱に学んで，21世紀の教育の展開に取り組んでいきたい。

新たに開館の京都市美術館・別館で

5月に「学校のたからもの」展　開催

学校歴史博物館の平成12年の大きな事業として，館外での展示事業があります。

左京区岡崎にある京都会館の別館として親しまれてきた旧・公会堂が改修され，京都市美術館・別館として4月に生まれ変わります。

その開館の柿落(こけらお)としの事業・第2弾として，「学校のたからもの　京都市立学校所属の名品展」を開催します。

全国に誇る，京都市立学校・幼稚園が所蔵する美術工芸品（学校文化財）の中から，選りすぐりの作品約120点を集め，展示いたします。

5月の「学校のたからもの」展にご期待いただき，ぜひ，ご観覧ください。

竹内栖鳳「鹿美人艸」

■名　　称／京都市美術館別館開館記念
「学校のたからもの一京都市立学校所属の名品展一」

■主　　催／京都市，（財）京都市生涯学習振興財団・京都市学校歴史博物館，京都新聞社，NHK京都放送局，京都洛南ロータリークラブ

■会　　場／京都市美術館別館（京都市左京区岡崎　京都会館内）

■会　　期／平成12年5月11日（木）～6月4日（日）22日間
＊休館日　毎月曜日

■入場料金／一般500円，高大生400円　小・中学生無料

■展示内容／2部構成
第1部「著名な作家の作品」
第2部「こどもを中心にした作品」

ボランティア　市民学芸員の声

来館者の思い出に触れる

「私はこれを使っていました。」と石盤・石筆を懐かしげに見ている人がある。石盤を使っていたとなると，もう百才近くの人々ではないかと訝(いぶか)しんだ。宇和島出身の方は83才，能登出身の方は73才とのこと。説明している私とそんなに年の差はないが，地方では昭和初期まで石盤が活躍していた様子が，来館者とのやり取りで陳列品から蘇ってくる。

教科書の部屋には各世代の方に懐かしい本が置かれている。それぞれが自分の習った教科書の前で足を止め，なかには文章を暗誦する方もある。それらの教科書から，自分の通った学校の校舎や教室，恩師や友人の面影を思い出したと明るい表情で語られると，こちらもホッとする。

個人的な私の好みでは，開学当時の古文書を読むのも楽しいもので，少し慣れてくるとほぼ読み取れ，開校への各地域の取組や，金銭関係それに土地取得の苦労等が偲ばれる。

（諏佐幸秀）

先人の遺徳を称えながら

古都・京都，さすが1200年の歴史を有する都の教育のありようは，あらゆる分野に多くの貴重な文化を築き育て，日本教育の先駆けとして子孫のために，営々と引き継がれてきました。先人に先ず深く感謝を捧げたいと思います。

私は兵庫県の出身ですが，ここ京都を第二の故郷に選んだことを誇りに思います。京都市の女性大学で少し生涯学習ボランティアの勉強をいたしましたが，この学校歴史博物館で活動する機会を得，解説をとおして人とのふれあいの温かさを感じています。

ここで学び得た数々の学校文化財について誠実に伝え一人でも多くの方に視点を変えた京都の奥深さを知って頂くように努めていきたいと思います。

（藤本明子）

京都洛翠ライオンズクラブから
「屋外休憩所」の寄贈

京都洛翠ライオンズクラブから，クラブの結成十周年記念事業として，学校歴史博物館に「屋外休憩所(総額500万円)」が寄贈されました。同クラブからは，毎年，教育施設にいろいろとご配慮いただいておりますが，今回は，学校歴史博物館に来館いただいた方々に，ゆっくりと休憩していただく場がなかったことから，十周年記念にと，立派な休憩所をお贈りいただきました。

12月15日に，洛翠ライオンズクラブの役員・会員を初め，地元・開智自治連合会の役員の方々，開智幼稚園関係者，門川大作教育次長，上田正昭館長等の出席のもとに寄贈式が行われ，クラブの北脇会長に教育次長から感謝状が手渡されました。

博物館のグラウンドは，開智幼稚園の園児たちの活動・遊びの場であり，また，地元の方々の生涯スポーツの場としても利用されていることから，来館者はもとより，園児たちから高齢の方々まで，幅広い年代の方に屋外休憩所を活用いただいております。

また，3月早々，同クラブの友好関係にある「四日市みたきライオンズクラブ」から，休憩所の備品として，展示パネル，パンフレットスタンド等の寄贈もいただきました。

寄贈を受けた屋外休憩所

平成12年・当面の主な展示・事業

特別展

「京都市に編入された郡部　葛野・愛宕・紀伊・宇治の学校名品」　(～4／4)

企画展

「テーマ　未定」

文化勲章受賞者，人間国宝の作家の陶磁器を中心とした企画展を予定。　(4月上旬～6月上旬)

懐かしの歌・唱歌教室

「土曜です，皆で歌の輪広げよう」

4～7月　毎月第3土曜日　午後2時～4時
[申込み・問い合せは，博物館へ。TEL344-1305]

館外展示

京都市美術館別館開館記念

「学校のたからもの一京都市立学校所蔵の名品展一」
(5／11～6／4)　京都市美術館別館

学校のたからもの展　特別講演会

「番組小学校が生んだ巨匠たち」

5/14 (日) 午後2時～　京都会館会議場
京都市立芸術大学教授　榊原　吉郎氏

ひと・まち・ロマン　元気都市・京都

京都市学校歴史博物館だより　VOL.2
■発行日／平成12年3月　■発行者／京都市学校歴史博物館
京都市下京区御幸町通仏光寺下ル橋町437（元開智小学校）TEL(075)344-1305 FAX(075)344-1327 〒600-8044
■インターネット・ホームページ　http://www.gakurehaku-unet.ocn.ne.jp